

## 桐たんすの風合いはそのままに、カビから桐たんすを守る！ 桐たんす用防カビ剤

東京都の伝統工芸品である桐たんすを製造販売する企業との共同研究開発により、今までにない桐たんす用防カビ剤「カビチリE」を開発しました。現在、販売中です。

### 【開発の背景】

住構造の高気密化が室内または壁面等の部分的な高湿度化をまねている現在の住環境において、カビなどの微生物に関する変色が多く取り上げられています。

日本では、高価な和服などを安全に保管する目的で古くから桐たんすが愛用されてきましたが、周囲の環境や使用頻度によっては桐たんすにカビが生育して黒褐色の変色を生ずることがあります（図1）。東京の伝統工芸品のひとつである桐たんすは、木目の美しさを強調する「うづくり加工」や植物から抽出した液を着色剤として用いるなど桐の持つ豊かな質感を表現するために伝統的な技法が施されています。通常の木製家具では防カビ剤を添加したウレタン塗装などを行うことでカビの生育を抑えていますが、桐たんすに用いられている伝統的な技法ではこれまで防カビ剤を添加していませんでした。

そこで、都内で桐たんすを製造する株式会社相徳と協力し、新たな桐たんす用防カビ剤の開発に取り組みました。



図1 カビによって変色した桐たんす

### 【開発の経緯】

当センターでは防カビに関する実習付きの講習会を定期的実施しています。この講習会の参加者から、桐たんすに生育するカビについて相談を受けたことがきっかけで、桐たんす用防カビ剤の共同研究を始めました。市販の防カビ剤では伝統工芸品である桐たんすの風合いを損なう恐れがあることなどから、これまで桐たんすにはカビに対しての対策を講じることが難しいという問題がありました。

### 【開発製品】

桐たんす用防カビ剤の開発では、防カビ効果が高く桐たんすの風合いを変えないという2つの重要なポイントに加えて、コストおよび防カビ剤塗布後の乾燥に要する時間などの作業性を考慮しました。桐たんすの変色原因となるカビの菌種を同定し防カビ成分および溶剤の組み合わせについて試行錯誤を繰り返した結果、桐たんすに最適な防カビ剤の開発に成功しました。この防カビ剤は製造工程だけでなく使用中の桐たんすにも塗布することが可能です。

開発した桐たんす用の防カビ剤「カビチリE」は株式会社相徳と共に特許出願し、現在、同企業から販売されています（図2）。



図2 開発した桐たんす用防カビ剤

### 【共同研究開発先】

株式会社相徳 URL : <http://www.aitoku.co.jp/>  
 開発本部開発第二部 資源環境グループ <西が丘本部>  
 小沼 ルミ TEL 03-3909-2151 内線 346  
 E-mail : konuma.rumi@iri-tokyo.jp